

# 令和8年度入学生用カリキュラムマップ

【文学研究科 臨床心理学専攻】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きづながる”に門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26MPWP1301	課題研究Ⅰ	1	院生各自が選択する研究テーマと直接関係する研究指導を行う。	1. 研究課題に基づいて研究計画を決定する。 2. 研究倫理に関する基礎知識を身につける。 3. 文献をレビューして、先行研究の課題を見つけ、研究の目的を立てる。		○		○		◎	◎	
26MPWP1302	課題研究Ⅱ	1	院生各自が選択する研究テーマと直接関係する研究指導を行う。なお、この科目は、「課題研究Ⅰ」からの継続科目である。	1. 研究方法を確定し、必要に応じて研究倫理審査を受審する。 2. 中間報告会で発表を行う。 3. 基礎論文を完成させる。		○		○		◎	◎	
26MPWP2301	課題研究Ⅲ	2	院生各自が選択する研究テーマと直接関係する研究指導を行う。なお、この科目は、「課題研究Ⅰ」および「課題研究Ⅱ」からの継続科目である。	1. 研究活動を進め、修士論文を完成させる。 2. 最終試験（口頭試問）を受けて履修便覧記載の審査項目の基準を満たすこと。		◎		○		◎	◎	
26MPWP1203	保健医療分野に関する理論と支援の展開	1	保健医療に関わる公認心理師等の心理実務者として、医療機関や地域で、様々な疾病や健康問題を抱える人の心理状態や心理的ストレスの程度・内容を理解し、精神状態や精神疾患を適切に把握し、必要な心理的支援を行える能力を育成する。	1. 疾病や健康問題を生物・心理・社会モデルから理解できる。 2. 疾病や健康問題を抱える人の心理とその基底にある心理機制が理解できる。 3. 疾病や健康問題を抱える人にみられる精神状態・精神疾患を的確に評価できる。 4. 上記2および3のために有用な心理検査を実施できる。 5. 以上の理解と評価に基づいて、心理療法（集団療法、認知行動療法等を含む）などの必要な心理的支援が行える。	◎	◎	○					
26MPWP1204	福祉分野に関する理論と支援の展開	1	福祉分野に関わる公認心理師等の心理実務者として、様々な障害をもつ子ども・成人、認知症者を含む高齢者、虐待を受けた子どもの社会的養護、子育て支援、DV等の理解と心理学的支援を実践できる力を身につける。	1. 人の発達に関する知識や各種心理検査等の技能を身につける。 2. 虐待の問題に対し、対象者、家族、ソーシャルサポート等を含む現状をアセスメントし、問題点を包括的に理解・評価する技能を身につける。 3. あゆる障害を持つ人々や高齢者、子育て中の親、DVの問題に対して、心理に関する支援を行う技能を身につける。	◎	◎	○					
26MPWP1205	教育分野に関する理論と支援の展開	1	教育分野に関わる公認心理師等の心理実務者として、幼児、児童、生徒、保護者および教職員に対する相談・援助を行う能力を育成する。	1. 幼児、児童、生徒、保護者および教職員に対する相談・援助を行う能力を身につける。 2. 不登校、いじめ、暴力行為などの問題行動の未然防止、早期発見、事後対応、発達障害を含む障害のある児童生徒等に対する心理検査や支援、学校への助言等の必要な対応を行う能力を身につける。 3. 幼児、児童、生徒、保護者および教職員に対して、助言、指導ができる能力を身につける。	◎	◎	○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26MPWP1206	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1	司法・犯罪分野に関わる公認心理師等の心理実務者として、その職務や倫理規範について理解を深め、犯罪・非行の諸理論を概観し、非行少年や犯罪者に対する様々な矯正処遇法に関する基礎知識を身につける。	1. 犯罪・非行を生物・心理・社会モデルから諸要因が複合して生じること、諸理論の概要を理解する。 2. 犯罪・非行臨床における心理査定と矯正処遇技法の実践力の基礎を身につける。 3. 犯罪や非行に関わる諸機関の心理系専門職の実務や倫理を理解する。	◎	◎	○						
26MPWP1207	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1	産業・労働分野に関わる公認心理師等の心理実務者として、労働者に対する相談・援助等を行うための基本的知識を身につけ、実践的支援、研修等が行える能力を育成する。	1. 労働、組織に関する基本的知識を身につける。 2. 労働者に対する相談・援助等を行う能力と研修等が行える技能を身につける。 3. メンタルヘルス対策の活動、労働環境の改善ならびに労働者のパフォーマンスの向上を促す事ができる技能を身につける。	◎	◎	○						
26MPWP1208	心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ	1	公認心理師の心理実務者として、心理的アセスメントに関する倫理的配慮について理解し、理論と実施法、解釈法を学び、実際に心理的アセスメントを実践できることを目的とする。また、結果の伝え方や結果に基づく心理支援を行えるようになることも目的としている。	1. 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解する。 2. 心理的アセスメント（発達検査・知能検査・認知機能検査）に関する理論と方法を身につける。 3. 上記1および2から心理に関する相談、助言、指導等ができる能力を身につける。 4. 各検査の結果の解釈法を学び、結果に示された内容を理解する。		◎	○		○				○
26MPWP1209	心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ	1	公認心理師の心理実務者として、心理的アセスメントに関する倫理的配慮について理解し、理論と実施法、解釈法を学び、実際に心理的アセスメントを実践できることを目的とする。また、結果の伝え方や結果に基づく心理支援を行えるようになることも目的としている。	1. 心理的アセスメント（人格検査、主に投射法検査）に関する理論と方法を身につける。 2. 上記1から心理に関する相談、助言、指導等ができる能力を身につける。 3. 各検査の結果の解釈法を学び、結果に示された内容を理解する。		◎	○		○				○
26MPWP1210	心理支援に関する理論と実践Ⅰ	1	支援・援助を必要としている人に対して、心理支援に関する理論を学び、学んだ理論を実践で活用できることは、重要な事である。そのために、心理療法の理論および実際に活用する際に必要な技能などを身につける。	1. 力動論に基づく心理療法の理論と技法を理解する。 2. 上記1から心理に関する相談、助言、指導等の技能を身につける。 3. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整ができる技能を身につける。		◎	◎		○				○
26MPWP1211	心理支援に関する理論と実践Ⅱ	1	支援・援助を必要としている人に対して、心理支援に関する理論を学び、学んだ理論を実践で活用できることは、重要な事である。そのために、心理療法の理論および実際に活用する際に必要な技能などを身につける。	1. 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と技法を理解する。 2. 上記1から心理に関する相談、助言、指導等の技能を身につける。 3. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整ができる技能を身につける。		◎	◎		○				○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26MPWP2202	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2	従来の心理支援は、個人に対する支援が中心であったが、時代の変化と共に家族関係など集団の関係性を取り上げたり、地域社会や集団・組織に働きかける支援も重視されるようになってきた。この授業では、集団の関係性に焦点づける心理支援およびコミュニティへの心理支援を中心に様々な理論ならびに方法論を学ぶことを目的とする。	1. 家族関係等集団の関係性に焦点づけた心理支援の理論や方法を説明できる。 2. 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する心理学的援助の理論や方法を説明できる。 3. これらの理論や方法を心理に関する相談や助言、指導などに応用できる。		◎	◎						
26MPWP2203	心の健康教育に関する理論と実践	2	心の健康の基盤となるような、自分の感情のコントロール力、自己表現、他者の感情への気づき、対人関係の構築力、問題解決能力などを伸ばすための様々なプログラムを理解し、実際に助言、指導が行える技能を養成する。さらに、心の健康における重要な問題である、いじめ、暴力、自殺などの予防啓発教育を実行できる能力を習得する。	1. 心の健康の基盤である社会性や情動調整力を伸ばす手法を理解し、実行できる。 2. 心の健康における実際の重要問題としての、いじめ、暴力、自殺などの予防啓発教育を理解し、実行できる。		◎	◎						
26MPWP1312	心理実践実習（学内）Ⅰ	1	学内実習施設で継続的にケースを担当することにより、①援助的関係構築能力、②臨床的アセスメント能力、③援助的介入能力を養成する。	1. インテークに陪席し、インテークの取り方、まとめ方、報告の仕方を身につける。 2. 発達検査・知能検査、その他の心理検査の実施・報告書の作成・フィードバックについて、実習を通して身につける。 3. カウンセリング、プレイ・セラピー、SSTや療育など、ケースに応じた介入方法を選択し、実施することができる。 4. 継続的に複数のケースを担当することを通して、援助的関係構築能力を習得する。 5. 守秘義務や必要な倫理等について体験的に身につける。	○	○	◎			○	◎	○	
26MPWP1313	心理実践実習（学外）Ⅰ	1	学外実習施設の職務内容を理解するとともに施設職員との関わりを通じて、職務領域の選択ならびに自己の適性を理解する。また、各専門領域についての研究能力、実践能力および学習意欲の向上を育成することを目的とする。	1. 学外施設での職務内容の理解および継続的にケース担当ができる力を身につける。 2. 学外施設での職務内容について、見学・陪席等を通じて理解し、記録・報告の仕方を身につける。 3. 多職種連携および地域連携、地域支援の在り方に関する臨床技能を身につけ、クライアントへのチームアプローチを検討し、実践することができる。	○	○	◎			○	◎	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きること”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26MPWP1314	心理実践実習指導（学内）Ⅰ	1	学内実習施設において、実習を適切かつ有効に行えるように、事前指導や事後指導などを行い、公認心理師としての責任感や技量を身につける。	1. 公認心理師に必要なコミュニケーションに関する知識と技能を修得する。 2. 公認心理師に必要な心理検査や心理面接に関する知識と技能を修得する。 3. 心理に関する支援を要する人を理解し、ニーズを把握して支援計画を作成することができる。 4. 臨床技能を身につけ、クライアントへのチームアプローチができるようになる。 5. 公認心理師としての職業倫理および法的義務を理解する。 6. ケース検討会での討議を通して、幅広い視点からケースを担当できる力を身につける。 7. 実習を通して得られた体験や活動を、心理に関する専門的知識および技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。			○	◎	◎		○	
26MPWP1315	心理実践実習指導（学外）Ⅰ	1	学外実習施設において、実習を適切かつ有効に行えるように、事前指導や事後指導などを行い、公認心理師としての責任感や技量を身につける。	1. 公認心理師に必要なコミュニケーションに関する知識と技能を修得する。 2. 公認心理師に必要な心理検査や心理面接に関する知識と技能を修得する。 3. 多職種連携や地域連携についての知識と技能を修得する。 4. 公認心理師としての職業倫理および法的義務を理解する。 5. 実習を通して得られた体験や活動を、心理に関する専門的知識および技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。			○	◎	◎		○	
26MPWP2304	心理実践実習（学内）Ⅱ	2	学内実習施設（本学附属相談機関）で継続的にケースを担当することにより、①援助的関係構築能力、②臨床的アセスメント能力、③援助的介入能力を習得する。	1. インテークに陪席し、インテークの取り方、まとめ方、報告の仕方を身につける。 2. 発達検査・知能検査、その他の心理検査の実施・報告書の作成・フィードバックについて、実習を通して身につける。 3. カウンセリング、プレイ・セラピー、SSTや療育など、ケースに応じた介入方法を選択し、実施することができる。 4. 継続的に複数のケースを担当することを通して、援助的関係構築能力を習得する。 5. 守秘義務や必要な倫理等について体験的に身につける。	○	○	◎			◎	◎	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）							
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生き残る”につながる専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力
					知識		姿勢			行動		
1	2	3	4	5	6	7	8					
26MPWP2305	心理実践実習（学外）Ⅱ	2	学外実習施設の職務内容を理解するとともに施設職員との関わりを通じて、職務領域の選択ならびに自己の適性を理解する。また、各専門領域についての研究能力、実践能力および学習意欲の向上を育成することを目的とする。 なお、実習期間中、実習担当教員による巡回指導等を行うことにより、学外施設と大学院が連携して上記目的の達成を図ることとする。	1. 学外施設での職務内容の理解および継続的にケース担当ができる力を身につける。 2. 学外施設での職務内容について、見学・陪席等を通じて理解し、記録・報告の仕方を身につける。 3. 多職種連携および地域連携、地域支援の在り方に関する臨床技能を身につけ、クライアントへのチームアプローチを検討し、実践することができる。	○	○	◎			◎	◎	◎
26MPWP2306	心理実践実習指導（学内）Ⅱ	2	学内実習施設において、実習を適切かつ有効に行えるように、事前指導や事後指導などを行い、公認心理師として必要な知識と技能を修得する。	1. 公認心理師に必要なコミュニケーションに関する知識と技能を修得する。 2. 公認心理師に必要な心理検査や心理面接に関する知識と技能を修得する。 3. 心理に関する支援を要する人を理解し、ニーズを把握して支援計画を作成することができる。 4. 臨床技能を身につけ、クライアントへのチームアプローチができるようになる。 5. 公認心理師としての職業倫理および法的義務を理解する。 6. ケース検討会での討議を通して、幅広い視点からケースを担当できる力を身につける。 7. 実習を通して得られた体験や活動を、心理に関する専門的知識および技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。			○	◎	◎		○	
26MPWP2307	心理実践実習指導（学外）Ⅱ	2	学外実習施設において、実習を適切かつ有効に行えるように、事前指導や事後指導などを行い、公認心理師としての責任感や技量を身につける。	1. 公認心理師に必要なコミュニケーションに関する知識と技能を修得する。 2. 公認心理師に必要な心理検査や心理面接に関する知識と技能を修得する。 3. 多職種連携や地域連携についての知識と技能を修得する。 4. 公認心理師としての職業倫理および法的義務を理解する。 5. 実習を通して得られた体験や活動を、心理に関する専門的知識および技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。			○	◎	◎		○	
26MPWP1216	臨床心理学研究法特論	1	臨床心理学の様々な研究法や、学術論文の形式について学ぶ。	1. 臨床心理学の研究法についての基本的な理解を身につける。 2. 修士論文の作成や研究活動を行う上での基礎的な知識、技能を修得する。 3. 臨床家にとって必要なケース報告やケース研究についても学ぶ。	○	◎		◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）								
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 / ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 多様な社会を理解する力	2. “生きつなげる”の専門性	3. 自他を尊重する姿勢	4. 失敗を恐れず挑戦する姿勢	5. 逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6. 論理的に考え伝える力	7. 新たな価値を創造する力	8. 多様な人々と協働する力	
					知識		姿勢			行動			
1	2	3	4	5	6	7	8						
26MPWP2208	子どもと親の面接特論	2	子どもとその親を対象とした心理的問題への理解、ならびに子どもとその親を対象とした心理療法や心理支援の理論および技法、そして実際に活用する際に必要な技能などを身につける。	1. 子どもとその親を対象とした心理療法、心理支援の理論と技法を理解する。 2. 上記1から心理に関する相談、助言、指導等の技能を身につける。 3. 実際のケースを取り上げて面接プロセスや職業倫理の視点から検討し、適切な理解や対応ができる力を身につける。	○	◎		◎					
26MPWP2209	心理療法特論	2	現代は価値観が多様化し、心理的問題は複雑化し、心理支援へのニーズも様々で、従来の心理療法の概念も変化している。そこで、現代的、統合的な心理療法ならびにカウンセリングの理論、技法、実践を学び、それらを応用できる能力を養成することを目指す。	1. 現代的、統合的な心理療法ならびにカウンセリングの理論、技法、実践を理解する。 2. 上記1から心理に関する相談、助言、指導等の技能を身につける。 3. 実際のケースを取り上げて面接プロセスや職業倫理の視点から検討し、適切な理解や対応ができる力を身につける。	○	◎		◎					
26MPWP1117	発達障害臨床特論	1	人の発達を心理学的にとらえる際の視点および方法が発達への評価や支援へ与える影響を研究例から理解することに加え、神経心理学の理論や研究法などの基礎的な学習の理解を深め、発達に関するアセスメント能力を身につける。	1. 発達の理論や基礎研究の成果を、研究および教育実践と関連づけて理解する力を身につける。 2. 神経発達障害群や神経認知障害群にみられる症状を、神経心理学的な立場から説明できる。 3. 講義の中で学んだことを自分の研究実践に応用する力を身につける。	○	◎		◎					
26MPWP2110	心理学トピック特論	2	対人過程を起源とする様々な不適応行動のメカニズムを考えるために、教育心理学および社会心理学の基本概念や研究方法、研究の枠組みに関する理解を深めることを目的とする。	1. 教育心理学および社会心理学の主要理論と研究アプローチを理解する。 2. 実証科学としての心理学の基本的研究パラダイムを理解する。 3. 心理学の研究論文をベースに学術的論議が展開できるようになる。 4. 英語文献講読に習熟する。	○	◎		◎					
26MPWP1218	心理学研究法特論Ⅰ	1	複雑かつ多様な人間の行動から人間のこころの働きを理解するために提案されてきた心理学における様々な研究方法に関する理解を深め、人間の行動を科学的に研究するために必要な基礎知識を身につける。	1. 様々な心理学的研究法に関する基礎知識を身につける。 2. 身につけた研究法に関する基礎知識を用いて、自ら課題を発見し、研究計画を行い、研究の問題点を指摘することができる。	○	○		◎					
26MPWP2311	心理学研究法特論Ⅱ	2	「心理学研究法特論Ⅰ」で身につけた、人間の行動を科学的に研究するために必要な基礎知識をさらに深め、より専門的知識を身につける。	1. 様々な心理学的研究法に関する専門的知識を身につける。 2. 身につけた研究法に関する基礎知識を用いて、より専門的な研究計画と研究の問題点を指摘することができる。	○	○		◎					
26MPWP2312	心理学研究法特論Ⅲ	2	「心理学研究法特論Ⅰ・Ⅱ」で身につけた、人間の行動を科学的に研究するために必要な基礎知識と専門的知識をもとにより心理学的支援とそれを支える理論構築に結びつくような方法論を身につける。	1. 心理学的研究法の様々な知識をもとに、実際の心理学的支援に結びつく方法論を理解する。 2. 心理学的支援の実践に結びつく研究法の理解や、理論から生み出された心理学的支援の実践に活かすための研究計画を行う。	○	○		◎					